原タイトル：The Intercept “The Dirty Business of Clean Energy: The U.K. Power Company Polluting Small Towns Across the U.S”
2024 年 9 月 30 日
URL：https://theintercept.com/2024/09/30/drax-wood-pellet-energy-air-pollution/

クリーンエネルギーの汚いビジネス：イギリスの

電力会社がアメリカ全土の小さな町を汚染

疑わしい炭素会計に基づき、イギリス最大の発電所を運営する Drax は、アメリカ全土で木質ペレット事業を急速に拡大している

シーラ・メイ・ドビンズが望んでいるのは謝罪だけだ。

2014 年、ミシシッピ州グロスターの自宅のすぐ近くに木質ペレットを生産する工場ができると、上司とスタッフが作業中に交わす会話が聞こえ、工場から排出される煙の臭いを嗅ぐことができた。

2 児の母である 59 歳のドビンズは、同じ町に住む姉と義理の兄と同様に、酸素ボンベに頼って呼吸している。夫のニールも酸素ボンベに頼っていたが、2017 年に亡くなった。ちょうどドビンズが急性の健康危機に陥り、心臓病と慢性閉塞性肺疾患（COPD）と診断された頃だった。ドビンズは、入院により 36 年間連れ添った夫の介護ができず、亡くなるまで過ごしたと語り、涙ぐむ。

「私は生命維持装置をつけていた」と、音声弁付きの気管切開チューブを装着していたドビンズは言う。「歩くことも話すこともできなかった。その間ずっと夫が病気だったのに、私はそれを知ることさえなかった」。

この工場を所有する英国拠点の電力大手 Drax Group は当初、ペレット工場が地元経済に数億ドルの投資をもたらすと主張し、州内で再生可能エネルギーを成長させる可能性を宣伝していた。

その代わり、この工場はほんの一握りの地元労働者を雇用しているだけで、そこで生産される木質ペレットは海外に輸出され、Drax の英国の発電所やその他の外国の発電所で燃料として燃やされている。ルイジアナ州バトンルージュの北 50 マイルにある小さな町グロスターの住民は、この工場が空気を汚染し健康を害していると主張している。2020 年、ミシシッピ州の工場は有害な大気汚染物質の法定限度を超えたとして 250 万ドルの罰金を科され、Drax は新たな汚染防止策を導入すると約束した。それ以来、排出限度に違反し続け、今月さらに数百万ドルの罰金に直面している。

グロスターは、Drax が米国で運営する 7 つのペレット工場のうちの 1 つに過ぎず、カナダでは 10 工場あり、同社は現在ワシントン州とカリフォルニア州で新しいプロジェクトに取り組んでいる。*Land and Climate Review* による Drax のカナダ工場に関する前回の調査では、環境法違反が 189 件発覚したが、そのほとんどは大気汚染に関連していた。ルイジアナ州にある Drax のペレット工場 2 つは、環境法違反で数百万ドルの罰金を科せられており、そのうち 1 つはさらなる排出ガス違反をめぐって 3 月に紛争解決の協議に入った。

この広大な事業は、イングランド北部にあり単一の発電所として英国最大の Drax 発電所の石炭火力発電を、木質ペレットという再生可能な投入物に置き換えるという崇高な目標を追求するために構築された。

しかし、環境保護論者や科学者の間では、英国の発電所の炭素集約度は石炭を燃やしていたときよりも木材を燃やす今のほうが高くなっていると警告する声が高まっている。発電所からペレット工場まで、同社全体が利益を上げているのは英国政府からの巨額の補助金のおかげである。しかし同社は今後数年間に米国で複数の新しい発電所を建設する計画で、新しいプロジェクトをのために連邦政府の補助金を求めている。

グロスターの住民、および Drax の現在および将来の工場の近くにある米国各地のその他の町の住民は、単純な疑問を抱いている。環境上の利益が不明なのに空気を汚染している企業を、なぜ英国政府が支援しているのか？

Drax は、グロスターの住民への物理的な影響を否定し、「Drax が委託した独立第三者機関による分析で、グロスターの工場による空気中の有害物質は、人間の健康に悪影響を及ぼさないことが判明した」と述べた。しかし、Drax は当該コンサルティング会社の名前や調査結果の詳細を明らかにすることを拒否したため、疑問は残ったままだ。

別のグロスター住民、マーティス・ウッダードは、この問題を直接体験している。「あの工場ができる前の方がよかった」とウッダードは語った。「空気がひどくて外に出られない。吸入器が 2 つあるのに、医者がもう 1 つ処方しようとした。喘息、COPD、狭心症がある」。

グロスター在住のデブラ・バトラーもウッダードに同調した。「庭が散らかっている」と彼女は言う。「呼吸器系の問題で外に出るのが怖い。アルブテロールを 1 日 1 回服用していたのが、今は吸入器で 1 日 3 回服用している。マスクを着けて外に出る。空気が汚染されていて、あらゆるものが匂い、味がする」。

他の友人や家族も、工場がオープンしてから数年の間に心臓や呼吸器の病気が出たという同じような話をしてくれた。ドビンズは、引っ越す前に同じ通りに住んでいて酸素ボンベに頼っていた 6 人の知り合いがいた。そのうち 5 人が亡くなっている。

Drax のペレット工場からの排出物は、グロスター在住者が述べた心臓疾患や呼吸器系の問題の唯一の原因ではなく、工場と住民の健康の直接的な関連は立証されていない。グロスター全体の貧困率は 39%で、ミシシッピ州は、健康全般では米国で下から 2 番目、小児呼吸器疾患では最下位である。

地元の人々は、Drax が町の経済を活性化させることを期待していた。しかし、彼らは町が衰退していると言う。

「私の意見では、すべてが悪化した」と、空気清浄のための地域活動を率いるクリスタル・マーティンは語った。「グロスターは小さく、非常に田舎で、公立学校はない。家は劣悪な状態で、建物は古くて荒廃している」。

「草は以前のように青々と育たない」と彼女は付け加えた。「木々も以前のように花を咲かせない。」

マーティンは、母親のジェーンの呼吸困難に触発され、2021 年に「Greater Greener Gloster」の旗印の下、地域住民とともに組織化を始めた。

「2016 年から体調が悪くなり始めたが、何が起こっているのかはわからなかった」とジェーン・

マーティンは語った。「2021 年に罰金が科せられたとき、工場が操業していた数年間の大気汚染が私を病気にしていたのではないかと考え始めた」。

Greater Greener Gloster は、町の工場反対運動を活性化させた。酸素吸入のために「37 フィート（約 11 メートル）の長さのコード」に頼っているにもかかわらず、ドビンズは「体に息がある限り」、工場の健康への影響について声を上げることを決意している。

「私は 3 回死にかけたが、神は私を待っていなかった」と彼女は言う。「私は生き証人だ。」

真夜中の有毒物質の急増

ブラウン大学のエリカ・ウォーカー率いる研究チームは、グロスターの空気には近隣の町に比べて劇的に高いレベルの有毒化学物質が含まれており、真夜中に汚染物質のレベルが急増することを突き止めた。

現在査読を受けているこの研究では、グロスターと、人口統計的に類似したミシシッピ州の町メンデンホールを比較している。メンデンホールには木質ペレット工場はない。ウォーカーは、サンプルサイズを大きくし、傾向を監視する時間をもっと増やす必要があると強調したが、彼女の最初の調査結果は「気象条件を調整した後でも、グロスターの大気汚染物質の濃度は桁違いに高い」ものだった。これは、木材を乾燥させたり燃やしたりするときに放出される揮発性有機化合物（VOC）と呼ばれる汚染物質のカテゴリーに特に当てはまる。

「VOC は厄介な物質だ」とウォーカーは言う。「胎児期に、もしも決定的に重要な時期にそれにさらされると、子どもは最初から健康が冒されていることになる。そして、それは時間の経過とともに雪だるま式に大きくなる。VOC は、刺激などの短期的な症状から、がんなどの長期的な症状までを引き起こすことがわかっている」。

この研究のヒートマップには、工場と近隣の住宅地の周囲に集中した汚染物質の雲が示されている。研究の査読前論文には、脆弱な集団が木質ペレット工場からの大気汚染の影響を受けており、近接性は子供の呼吸器疾患リスクの統計的に重要な要因であると記されている。

「特にグロスターから得たデータから、人々がこれらの工場の隣に住んでいると問題になることがわかった」とウォーカーは述べた。「これは彼らの短期的および長期的な健康状態だ。直接的な影響がある」。

Drax の広報担当者は、同社のコンサルタントが「工場からの汚染物質が許容可能な周囲濃度を超えていないことを確認した」と述べた。

ウォーカーの研究で予想外の発見は、彼女が「日和見的な投棄」と呼ぶものである。ウォーカーのデータは、彼女が「とんでもない急増」と呼ぶ夜間の VOC 排出量を示している。環境保護庁が確認した VOC の 1 日平均は危険水準ではないが、ウォーカーのデータからは、監視が 1 時間ごとではなく 1 日に一回しか実施されていないという「構造的な問題」が明らかになったという。

住民は、夜間に汚染がもっと気になったことがあるという。ドビンズは「夜、眠れないときがあり、外で座りたいので夫を起こさなければならなかった。でも外に出ると『家に戻る』と夫に言った。それほど臭いがひどかった」と語った。

「それに、その臭いは馴染みのないものだった。人生でそんな臭いを嗅いだことはなかったので、うまく説明できない。でも、変な臭いだ。ひどい、とてもひどい臭いだ」とドビンズは続けた。「夜が一番臭う。誰にも見られたくないかのようだ」。

環境弁護士のパトリック・アンダーソンは、急増は単に大気の状態による可能性もあると警告した。「たとえ一定の割合で排出していたとしても、夜に気温が下がると、VOC が地上近くに降りてくる可能性がある」と言う。

しかし別の可能性も示唆した。「これらの工場は排出抑制装置を回避できるようになっている。爆発して人が怪我をするのを避けるために、絶対にそうしなければならない理由がある場合もある」。

Environmental Integrity Project で働いている間、アンダーソンはテキサス州の別の木質ペレット会社への訴訟に関わり、「彼らの事業記録を徹底的に調べることになった」。彼は、その会社が週に何度も排出抑制装置を回避し、そのたびに地元の地域に煙が充満していることを発見した。

「彼らは緊急事態のためだけではなく、日常的にそうしていた」とアンダーソンは語った。グロスターでの調査結果と同様に「夜間は状況が悪化した」。

2020 年、ルイジアナ州の環境規制当局は、同州の Drax 施設で「文字通り年間数百時間も制御されていない排気が行われていた」と主張する匿名の情報源からの報告を受けた。

グロスター工場が規制当局に提出した報告書によると、2023 年には汚染対策装置を迂回した時間は 500 時間以上に上った。ただし、それが規制違反にあたるとの指摘はない。同社は今年 4 月、活動家らからの手紙への応答の中で、「夜間の排気を縮小」し始めると約束した。

南部の州境を越えた汚染のパターン

2024 年初頭から、グロスター工場は、検査官に記録を提供しなかったことや、排ガス検査の実施期限を 43 日過ぎたことなど、違反を記した 2 通の手紙を受け取っている。しかし、これらは同社が米国で最近犯した環境規則違反の中で最もひどいものからは程遠い。

1 月、ルイジアナ州の規制当局は Drax に、同社が 2022 年 1 月から 2023 年 6 月の間に同州にある 2 つの工場で 381 件の汚染対策迂回を行ったという通知を送った。その結果、ルイジアナ州環境質局は現在 Drax と罰金交渉中である。同局は 2022 年に以前の違反について同様の通知を出し、Drax は一工場あたり 160 万ドルで和解した。

同社はまた、環境弁護士のアンダーソンが「大気浄化法が対象とする最も有毒で有害な汚染物質の一部」と表現するカテゴリーの汚染物質を安全基準を超えるレベルで排出していることでも調査を受けている。木質ペレット工場から排出される有害な大気汚染物質には、ホルムアルデヒドやベンゼンなどの発がん性物質や、「非常に微量であっても肺や喉、鼻、目に刺激を与える」アクロレインなどがある。

2021 年、ミシシッピ州政府はグロスター工場でこれらの「有害な大気汚染物質」の検査を義務付け始めた。検査の結果、同工場は 2022 年と 2023 年の両方でこれらの化学物質の規制を超えていたことが明らかになった。特定の化学物質の規制も期間中に違反しており、たとえばメタノールの

規制は 2021 年 6 月から 2022 年 6 月の間に 80%以上超過した。 2024 年 9 月、Drax はこれらの違反行為およびその他の違反行為により 22 万 5000 ドルの罰金を科せられた。

2023 年、アンダーソンと同僚はルイジアナ州の規制当局に、同州にある Drax の工場について「Drax は再び排出量を正確に記録・報告できていない」と書簡を送った。Environmental Integrity Project の弁護士らは、2021 年にグロスターで新たな排出検査が行われた後、「Drax はルイジアナ州の工場がほぼ確実に許可限度を超えていることを［ルイジアナ州環境質局］に報告できたはずであり、また報告すべきだった。…しかし、Drax は代わりに、古くて不正確な［有害大気汚染物質］排出データが正確であると証明し続けた」と主張した。

Drax はその後、ルイジアナ州の工場が実際に限度を超えており、ウラニアのラサール工場では 59%、バストロップのモアハウス工場では 58%であったことを認めた。

Drax は、新たな排出テストの後、州の環境質局と協力してテストと許可の更新について調整したと述べた。グロスター工場は現在、ミシシッピ州環境質局と有害大気汚染物質の罰金について交渉しているが、ルイジアナ州では同様の強制措置はまだ取られていない。アンダーソンは、そのような措置は「明らかに正当化される」と述べた。

当局は、以前にも Drax のルイジアナ工場での疑わしい活動について警告を受けていた。2020 年、同州の環境局は、同社に勤務していると主張する匿名の情報源から電子メールを受け取った。

電子メールには、Drax の規制遵守に関する多数の申し立てがあり、そのうちのいくつかはその後、検査官によって確認された。モアハウス工場では廃棄物が不適切に処理されており、ラサールでは許可なく焼却されていた。Drax は、*Land and Climate Review* に対し、過去に産業汚泥を焼却していたのは「管理上の誤り」だったと語った。

検査官は、電子メールの最も衝撃的な主張のいくつか、たとえば、Drax が各施設で有害汚染物質を「文字通り何百時間も制御不能に放出していた」ことを報告していなかったことなど、その証拠を見つけることができなかった。 「これらの事象の多くは、アクロレインの報告対象量を優に超える」と電子メールには記されていた。Drax は *Land and Climate Review* に対し、アクロレインの主張は「証明されていない」と述べたが、制御されていない排出についてはコメントしなかった。

電子メールには、汚染データが操作されていると経営陣に伝えられた後、「何の措置も取られなかった」という主張や、報告されていない汚染について言及すると「上級経営陣が解雇をちらつかせる」という主張も含まれていた。検査官は経営陣の行動に関する主張には触れず、Drax は「排出を監視する責任を負っている地方機関と協力するのが当社のパターンと慣行だ」と述べ、その主張を否定した。

英国の電力消費者の負担による、怪しげな炭素会計

環境保護論者や科学者たちは、ペレット事業が森林の劣化を促進し、英国の発電所から排出される CO2 は、木材の代わりに石炭を燃やしたときよりも炭素集約度が高くなっていると警告している。しかし Drax 社は、ペレット事業は森林火災を防ぎ、雇用を創出しており、ペレットは適切に管理された森林から供給されていると主張。「生物起源の炭素循環からの CO2 は、石油、ガス、石炭の燃焼によって放出される化石由来 CO2 とは別物として考えるべきだ」と述べている。

「木材がバイオエネルギーに使われようが、これらの木が自然に分解されようが、同じ量の CO2 が大気中に放出される。」

Drax の論理は、1997 年に京都議定書として知られる国連条約で確立された炭素会計ルールと一致している。この条約は 2005 年に発効し、1992 年の国連気候変動枠組条約を大幅に拡大した。しかし、そのページの中に埋もれていた、異なる場所での排出量の二重計上を防ぐための比較的小さなルールが、バイオエネルギー業界を一変させた。

この枠組みでは、排出量は木が伐採された国でのみカウントされるべきであり、燃やされた場所ではカウントされるべきではないとされていた。これは事実上、発電所で燃やすために木材を輸入する国々に炭素会計の抜け穴を提供した。英国の場合、Drax の発電所は国内最大の CO2 発生源であるにもかかわらず、排出量は公式にはゼロと記録されている。

これらのルールには、それを考案した科学者の一部からも多くの批判が集まっているが、英国の政策は依然としてそれを基にしている。2021 年、500 人の科学者が欧州委員会のウルズラ・フォン・デア・ライエン委員長に書簡を送り、エネルギー源として木材を燃やすことをやめるよう求めた。

「木材を燃やすと、数十年から数世紀にわたって温暖化が進む。これは、木材が石炭、石油、天然ガスに取って代わったとしても当てはまる」と記されている。

「こうした害を避けるために、政府は、自国の森林であれ他国の森林であれ、木材を燃やすことに対して現在存在する補助金やその他のインセンティブを廃止しなければならない。欧州連合は、再生可能エネルギー基準と排出量取引制度において、バイオマスの燃焼をカーボンニュートラルとして扱うのをやめる必要がある」

専門家の高まる懸念は英国の政治にも波及し、多額の補助金を受けている Drax の木質ペレット事業と、同社の英国発電所からの CO2 排出量について、国会議員からの批判の声が強まっている。

英国のすべての主要政党の政治家は、Drax のサプライチェーンへの公的資金提供について批判的に発言している。最近の英国のエネルギー大臣 2 人でさえ懐疑的だ。2021 年から 2022 年まで大臣を務めたクワシ・クワテングは、Drax のサプライチェーンは「持続可能ではない」し「意味をなさない」と述べた発言が記録されている。一方、後任のジェイコブ・リース＝モッグはさらに踏み込み、Drax の「ばかげた」炭素会計を「不思議の国のばかげた話」と公に評した。

今年 7 月の総選挙で中道左派の労働党が勝利して以来、英国の新首相キア・スターマーとエネルギー大臣エド・ミリバンドは、エネルギー分野に関する重要な演説でバイオマスについて言及せず、この件に関して疑念を持たせるほど沈黙している。

Drax の補助金は 2027 年に終了する予定であり、継続すべきかどうかの決定は英国の新政府にとって難しい問題だ。更新は議会、報道機関、科学者からの反発に直面する可能性が高い。しかし、労働党はクリーンエネルギーに野心的な目標を掲げており、政治家たちはすでに新しい風力発電所や太陽光発電所について有権者からの不満に直面している。科学的な現実はより複雑であるとしても、2030 年の目標を紙の上で達成することは政治的に好都合である。それはよりクリーンな代替案にはない利点である。

Drax は、バックアッププランとして、英国補助金に頼るのではなく、米国での事業を拡大し、イ

ンフレ抑制法の税額控除と州レベルの優遇策の確保を目指すことを明確にしている。2023 年初頭、Drax の CEO ウィル・ガーディナーは、2024 年 7 月までに将来の補助金の保証が得られなかった場合、同社は米国での計画を「加速」し、英国の「優先順位を下げる」と報道陣に語った。Drax はまた、*Land and Climate Review* に対し、新しいバイオエネルギーの炭素回収・貯留施設を建設し、炭素除去技術に集中するつもりであると語った。

英国政府からの保証はまだ届いていないが、米国で開発中の 3 つの新しいペレット工場が何らかの指標となるとすれば、Drax は米国での事業拡大に本気なのかもしれない。

太平洋岸北西部の新工場、新たな問題

2022 年以来、Drax Group は新しいペレット工場に目を向けてきた。今回は、オレゴン州ポートランドの北約 50 マイル、ワシントン州のコロンビア川沿いにある北西部の小さな都市ロングビューに建設する。

この 2 億 5000 万ドルのプロジェクトを紹介する豪華なウェブページによれば、この工場では地元の製材所から出たおがくずや削りくずを使ってペレットを製造し、この地域で 300 人以上の雇用を支えるという。「私たちはネイチャー・ポジティブ（自然にとってポジティブ）です」と宣伝ページには書かれている。「私たちの仕事は、ワシントン州とオレゴン州の人々が暮らし、働き、遊ぶ環境を保護することに重点を置いています」。

しかし、地元住民がこのプロジェクトにまず抱く感情は、自然にとってであれ何にとってであれポジティブさというものではない。

「人々は、南東部のコミュニティが木質ペレット産業でどのような問題に直面しているかを知っているので、この問題を非常に懸念しており、そうした問題が起こらないようにしたいのだ」と、Earthjustice 環境弁護士アシュリー・ベネットは説明した。

Drax が計画中の工場をめぐる規制プロセスに取り組んでも、こうした懸念は解消されなかった。当初の大気汚染許可申請では、Drax は工場から排出される有害大気汚染物質を年間わずか 0.53 トンであるとして、工場からの予想排出量を大幅に過小評価していた。その後、地元の汚染規制当局とのやり取りで、Drax はこの推定値を年間 48.9 トンに修正した。

Drax が公式文書で排出量をほぼ 100 分の 1 に過小評価したことは、専門家を驚かせた。アンダーソンによると、当初の推定値は「まったくあり得ないものだった。彼らは木質ペレット工場には当てはまらない排出係数と排出量推定値を使用していた。このようなことが起こるとは、数値が 2 桁もずれるなんて信じられない」。

予定されている規模と排出物の毒性を考慮すると、この工場は有害大気汚染物質のレベルを最小限に抑えるために、EPA の達成可能な最大の制御技術（Maximum Achievable Control Technology , MACT）基準の対象となるべきである。

しかし、最初の大気許可申請とその後の規制当局とのやり取りの両方で、Drax はロングビューのペレット工場が有害大気汚染物質の主要発生源になり、したがって MACT 基準の対象となることを述べなかった。

アンダーソンはこの省略を「非常に、非常に懸念される」と述べた。回答の中で、Drax は排出物に関して誤解を招くようなことはせず、地元機関との協力を方針とし実践してきたと述べた。質問に対して、Drax は提案書で排出量を大幅に過小評価した理由を説明しなかったが、規制当局を誤解させる意図はなかったと否定した。

40 年間ロングビューに住んでいるダイアン・ディックは、「Drax について地元住民から懸念がある」と述べ、これには「コミュニティの健康、環境の健康、森林資源の健康」に関する懸念も含まれると述べた。

ディックは 3 月、ある日目覚めると自宅下の工業地帯に大きな白いドームが一夜にして設置されていたことに気づき、自ら州の規制当局に通報した。

彼女の電話が調査につながり、地元の大気管理局は、Drax が法的許可なしに建設を開始しただけでなく、許可申請書や暫定大気許可に含まれていない機器も設置していたという明確な調査結果に至った。ディックがドームを目撃したことが一連の出来事のきっかけとなり、Drax は 34,000 ドルの罰金を科せられた。これは、Drax がこの現場で犯した初めての違反ではなかった。2023 年後半には、同社はコロンビア川の水質に関する規則に 2 度違反した。

調査後、Drax は建設を中止するよう指示され、許可手続きは停止された。

Drax は当初、工場の原材料は伐採したばかりの木材ではなく、おがくずや削りくずから調達されると主張していた。この主張はプロジェクトのウェブサイトと当初の環境影響報告書の両方で繰り返されていたが、これも崩れた。

当初の環境チェックリストが提出されてから 1 年後、プロジェクトには伐採が必要であることが明らかになった。Drax の環境担当ディレクター、ウェイン・クーイは今年、規制当局への電子メールで、当初の提案では同工場は「残材」のみを使用すると述べていたのは「不注意」だったと認めた。Drax のウェブサイトには今でも、「独立した第三者コンサルタント」が「余剰のおがくずと削りくずは半径 60 マイル以内で入手可能」であることを確認したと書かれている。

当初の提案に基づき、カウリッツ郡はプロジェクトに重要性なしの判定を下した。つまり、より厳格な環境影響評価を受ける必要はないということだ。カウリッツ郡当局はその後、廃棄物ではなく商業用木材を使用するという Drax の新しい計画では、プロジェクトは当初の提案から「大きく外れた」ものになると認めたことが、Earthjustice が入手した公的文書に記されている。

「Drax は、その影響がどうなるかを慢性的に一貫して過小評価しているようだ」と、環境正義団体 350PDX の森林気候マネージャー、ブレンナ・ベルは述べた。「彼らは歓迎されていないと思う」。

こうした懸念について尋ねられた Drax の広報担当者は、同社は環境保護のベストプラクティスを確立するために規制当局と緊密に協力し、工場の改善に 1 億 8000 万ドルを投資し、地元コミュニティに寄付を行っていると述べた。同広報担当者は、Drax が汚染や環境への影響に関して常に誤解を招くような情報を流していることはないと述べた。

カリフォルニア州の農村部に大規模バイオマスがやってくる

ワシントンでの進展が停滞する中、Drax は西海岸 1000 マイル南にある他の開発に目を向けている。

2 月に Drax は、山火事のリスクを軽減することを目的とした自称「森林回復力イニシアチブ」に署名し、カリフォルニア州の農村部に 2 つのペレット工場を建設することを提案した。1 つはモデストの東にあるトゥオルミ郡、もう 1 つは同州の北東部に位置するラッセン郡である。

この計画は、カリフォルニア州の農村部の地方自治体の協会であるカリフォルニア州農村郡代表者協会によってまとめられ、Golden State Natural Resources と呼ばれる新設の公的機関を通じて策定された。Drax はまだこのプロジェクトに法的に関与していないが、資金調達と投資について話し合う拘束力のない契約に署名している。

カリフォルニア州のプロジェクトは、切実に必要とされている山火事緩和策として位置づけられており、「Golden State Natural Resources は、市場性のない余剰バイオマスや火災の燃料となる木をより価値の高い木材製品に変換することで、雇用を創出し、地方経済を刺激し、危険な山火事の状況を緩和するプロセスを開始する」と宣言している。

しかし、Drax の関与を地元の活動家たちは警戒している。プロジェクトが南東部やワシントン州のコミュニティを悩ませているのと同じ問題をカリフォルニア州でも引き起こしてしまうのではないかと懸念しているからだ。

天然資源防護協議会（Natural Resources Defense Council）の森林問題担当、リタ・ヴォーン・フロストは、Drax の関与で「これが本当に山火事緩和や経済発展のためであるという大義が消し去られる。私たちにはその本当の姿が見える。つまり利益目的だ」と述べる。

Drax は、この計画が経済発展や山火事緩和を意図したものではなく、純粋に利益目的であると示唆するのは事実ではないとしている。

カリフォルニア州農村郡代表者協会の CEO、パトリック・ブラックロックは、収益性が重要な目的であることを認めた。より物議を醸さない山火事緩和策よりもペレット工場が選ばれた理由を問われると、ヨロ郡の行政官は「率直に言って、商業的に実現可能な方法を見つけたかったのも理由の一部だ」と答えた。また、カリフォルニア州天然資源庁長官のウェイド・クロウフットがブラックロックとの「最近の会議」で、商業的実現可能性の重要性を強調したと付け加えた。

ブラックロックは、Drax が南東部の環境規制に従わなかった歴史は承知しているが、カリフォルニアの工場は「違う」と主張した。

「これはコミュニティ主導、公的機関主導という事実に戻ると思う。公的機関の運用は、そうはならない」と同氏は述べた。「私たちは法律の条文に従って行政を行う。環境審査に関する約束に従って行政を行っている」。

しかし、カリフォルニア州農村郡代表者協会の上級副会長クレイグ・ファーガソンは、ブラックロックも出席した会議でこの点に反論し、このプロジェクトが公的機関の完全な管理下に留まる可能性は低いと警告した。

「施設を建設するなら、何億ドルもの費用がかかる。資金を出す人たちは、何らかの支配権を期待するだろう」とファーガソンは 5 月に語った。

ラッセン工場の調達圏内にある Mount Shasta Bioregional Ecology Center のプログラム・マネージャー、ニック・ジョスリンは、この新しいプロジェクトが地域に良い雇用をもたらすという主張に疑問を呈している。

両工場は、かつては州内でも木材産業が盛んだった地域にあり、ジョスリンは、話を聞いた地元住民は、雇用目的で工場が地域に戻ってきたら喜んでいるようだと認めた。しかし、ジョスリンは、ペレット工場は、過去に地域を支えてきた産業とは異なると考えている。「こうした産業施設内では、それほど多くの雇用はなく、雇用は極めて危険な状況でのメンテナンス作業となるだろう」。

カリフォルニア州の地方郡代表者らは、2022 年に林業の仕事に最低賃金基準を設定する法案にも公然と反対した。

「最終的に彼らは、人々が再び林業の仕事に就けるようにしたいが、十分な賃金を支払ってほしくないと考えている。それは誰にとっても少し衝撃的だった」とジョスリンは言う。

2021 年以来、Golden State Natural Resources はカリフォルニア州政府へのロビー活動に 15 万ドルを費やしており、その一部は労働者の賃金に関係している。2023 年、同団体の上部組織が「火災燃料削減プロジェクト」（建設が提案されている工場はこれに該当する）の労働者に「現行賃金」の最低賃金を設定する法案に公然と反対した後、Golden State Natural Resources は法案のロビー活動に 4 万 5000 ドルを費やした。

同機関の役員会メンバー自身も、誇張された雇用の約束に懸念を表明している。「私たちは地元の人々を雇用することを約束している。そして、私たちが雇用することになる地元の人々は、作業員が全員帰った後にトレーラーパークを掃除する人だけだ」と、ハンボルト郡のボン管理官は 5 月に委員会に語った。

地元の活動家たちは現在、何度も延期された末、9 月に予定されているプロジェクトの環境影響評価案の発表を待っている。

その間、ヴォーン・フロストと他のプロジェクト反対派は、州と郡の当局者らに「山火事のリスクは毎年ますます切迫しているのに、無駄なプロジェクトにお金を無駄にしないよう」説得することに力を注いでいる。

「政策立案者と話をするとき、私はこう言う。『Golden State Natural Resources を支援することは、フライパンから飛び出して火の中に飛び込むようなものだ』」と、ヴォーン・フロストは語った。

さらなる事業拡大へ

2023 年の報告書によると、2023 年に英国の電気料金支払者から受け取るグリーン電力の発電に対する補助金（総額 5 億 4800 万ポンド（7 億 1900 万ドル））がなければ、ペレット工場を含む 72 社の Drax Group 全体が赤字に陥ることになる。

そのため、賢明な営利事業であればどれもそうであるように、Drax は収入源の多様化を目指しており、米国政府から補助金を得るために、同じ疑わしい炭素計算に頼ることになる一連のペレット

を燃焼する発電所を米国に新設する。Drax が米国の新工場を新たな収益源・成長源としたいのであれば、それに続いて発電所の新規建設が必要になる。

英国の補助金をめぐる不確実性が長らく続いていることで、プレッシャーは増すばかりだ。同社は 2023 年の主要な新規補助金の最終候補に漏れ、先月は英国エネルギー規制当局 Ofgem に報告した木質ペレット輸入に関するデータに誤りがあったため、規制違反として 2500 万ポンド（3300 万ドル）を支払った。Drax は、規制調査の結果は新たな収入源の追求や将来の補助金の可能性と関係がないとした。同社は *Land and Climate Review* に対し、英国政府がバイオマス発電業者への将来の支援について協議を行っており、それを歓迎していると語った。

Drax は昨年、米国とカナダ全土に最大 11 の新しいバイオマス発電所を建設する計画を発表し、それぞれに炭素回収・貯留技術が追加される。この新しい（そして高価な）技術により、同社は英国の発電所がカーボンニュートラルであるというすでに物議を醸している主張を超えて、新しい施設はカーボンネガティブになると主張する予定だ。同社は 1 月、プロジェクト遂行のため、新たな子会社 Drax U.S. BECCS Development LLC を設立した。

テキサス州に本社を置く Drax の新しいバイオエネルギー部門は、すでに米国南部の 2 カ所を発電所建設用に確保しており、北米全体でさらに 9 カ所を評価中だと主張している。Drax は、南東部での最初の発電所プロジェクトには 20 億ドルの投資が必要で、2026 年までに最終投資決定を下すことを目指しているという。

これまでの調査では、11 カ所すべての発電所の燃料消費量が Drax の英国発電所と同等になると、年間約 3 億本の樹木に相当する燃料が燃やされ、排出量をゼロにするには 1 億トン以上の CO2 を回収して貯蔵する必要があると推定されている。Drax はこの計算に異議を唱えているが、その理由の一つは同社の炭素会計手法にある。

Drax の新発電所が連邦補助金の対象となるかどうかは、英国で Drax が発電所の排出量をゼロとして報告することを許しているのと同じ物議を醸している炭素会計規則を米国が採用するかどうかにかかっている。

Drax は確かにこれを推進しているようだ。Drax は、ロビー会社 VNF Solutions を通じて、ルイジアナ州選出の元米国上院議員で、在職中はエネルギー天然資源委員会の委員長を務めたメアリー・ランドリューを雇用している。VNF Solutions のロビー活動開示によると、ランドリューは「炭素回収・貯蔵を伴うバイオエネルギーに関する法律」についてロビー活動を行っている。

米国のバイオマスエネルギーは岐路に立っている。5 月、米国財務省はクリーン電力生産税額控除に関する規制を提案した。バイオマス発電所の適格性については明確に言及されていないが、規則案では「温室効果ガスの排出量が実質ゼロとなるクリーンエネルギー施設」はいずれも税額控除を受けられるとされており、Drax が推奨する炭素会計規則が採用されれば、同社の発電所にも適用される。これはインフレ抑制法を通じて導入された連邦税額控除の 1 つであり、Drax が建設を計画しているような発電所の資金調達に役立つ可能性がある。

Drax がカリフォルニア州の発電所建設のためのロビー活動を行うためにカリフォルニア州農村郡代表者協会またはその機関を雇うかどうか尋ねられたとき、同会の CEO であるブラックロックは、「Drax は間違いなくその関心を持っていますが、率直に言って私たちもそうです。…私たちは共通の関心を持っています」と曖昧に答えた。

過去 1 年半で、カリフォルニア州農村郡代表者協会はカリフォルニア州政府へのロビー活動に 150 万ドル以上を費やした。2023 年 1 月から 2024 年 6 月までのロビー活動報告書では、バイオマスは 13 回言及されている。

民主党または共和党がバイオマス発電に対して強硬な姿勢を取るかはまだ明らかではない。共和党の大統領候補ドナルド・トランプはインフレ抑制法を完全に骨抜きにすると脅しており、これは間違いなく Drax のアメリカ人 CEO を失望させるだろう。CEO はプレスリリースで、ジョー・バイデン大統領の法案に含まれる「目が眩むような」補助金は同社にとって「変革をもたらす」ものだと述べた。

しかし、カマラ・ハリスが勝利しても Drax にとって順風満帆という保証はない。民主党の大統領候補ハリスは現在、明確なエネルギー政策がないとして非難されており、最終的には他の民主党員から、Drax のビジネスモデルを新しい補助金制度から除外するよう圧力を受けることになるかもしれない。

主要政党の人物らは、この業界に対して声を上げ始めている。例えば、コーリー・ブッカー上院議員は、この業界は「低所得者やマイノリティのコミュニティに、環境被害や環境不正義のより大きな負担を負わせている」と述べた。

ブッカー上院議員は、エリザベス・ウォーレン上院議員など他の党幹部とともに、4 月にバイオマス炭素会計を改革する法案を提出した。同月、EPA は木質ペレット工場の健康への影響を調査する研究プロジェクトを立ち上げた。

「現在、EPA は調査を進めており、健康への影響分析も行っている」と Earthjustice のアシュリー・ベネットは言う。「これらはこの産業が現在のあり方では持続不可能であることを示す兆候だと思う」。

「クリーンエネルギーは、伐採の増加や森林の劣化につながるべきではないし、温室効果ガスを排出するものであってはならない」とベネットは主張する。「これらの施設は、その施設が立地する地域社会にとって決して良いものではない。公衆衛生を危険にさらし、森林を危険にさらし、生態系を危険にさらし、最終的には気候危機をさらに悪化させます」。

（翻訳：Land and Climate Review）